例会記事

十一月例会　十一月二十七日（土）
順天堂大学医学部九号館一番教室

一、蔗軒日録中の医事記録について　安井広迪
二、医学史的パリ一九八二年　大村敏郎

十二月例会　十二月十八日（土）
順天堂大学医学部九号館一番教室

（十二月例会は蘭学資料研究会との合同で行われた）

一、日本の解剖図の変遷　酒井シヅ
二、出島史跡整備委員会の答申についての報告　箭内健次
三、医心方の伝写について（Ⅳ）　杉立義一

日本医史学会関西支部秋季大会案内

とき　十一月十四日（日）午前十時より
ところ　大阪市南区末吉橋通三　牟田病院講堂

発　表

(一) 津藩と新宮家―主として種痘に関し　茅原　弘（三　重）
(二) 「江馬蘭学塾来翰集」出版経過について　青木一郎（岐　阜）
(三) 嘉納家文書（末中先生提供）をめぐって―入歯師の吟味―　杉本茂春（大阪歯大）
(四) E・ベルツの日本人栄養論　安井　広（愛　知）
(五) 医ジャーナリズム・医政―ランセット・BMAの例　栗本宗治（大阪医大）
(六) 大坂医者番付について　中野　操（大　阪）
(七) 日本皮膚科学史（その三）性病と性病対策　長門谷洋治（堺　市）
(八) 大野藩初の塩湯治の資料（文政十三年七月二十一日）　岩治勇一（大野市）
(九) 京都のオランダ宿とその運命　宗田　一（杏雨書屋）
(十) 産科習俗（スライド供覧）　杉立義一（京都市）
(十一) 除痘館をめぐる人々　古西義麿（此花図書館）
(十二) 「日本医事大年表」と兼康家の人びと　杉本茂春（大阪歯大）
(十三) スライドによる新収蔵資料の紹介（2）　古田恵子　青木允男（くすり博物館）
(十四) 浅川賞と浅川博士　藤野恒三郎（神戸学院大学）

演題追加

(十五) 旭川市アイヌ墓地の高札文　末中哲夫（兵庫教育大）
(十六) お雇いオランダ人医師、ボードイン・ブツケマ・エルメレンス・ハラタマ等に関する新知見　石田純郎（三菱水島病院）
(十七) 一般人を対象とした軍医の病院
(1) 恵愛医院（名古屋）　佐久間温巳（西尾市）
(十八) 嵯峨寿安の黒川自然先生小伝　寺畑喜朔（金沢医大）

改革要綱を可決、新執行部選出
—日本学術会議第八十六回総会報告—

緊迫した雰囲気のもとで、第八十六回総会は、十月二十、二十一、二十二日の三日間にわたり開催された。第十二期開始とともに発足した日本学術会議改革委員会は、精力的な活動を続けてきた。前総会で改革試案が採択されるや、直に会員、有権者、学会・協会、学識経験者などの討議に付され、それらをまとめた改革要綱案が、今総会に提出された。活発な審議に基づく若干の修正ののち、独立して職務を果たす国の機関としての現学術会議の基本的性格を保持し、その役割の一層の発展を目指す改革要綱案は圧倒的多数の賛成のもとに要望・声明などとともに可決された。

その直後、伏見会長、岡倉・塚田両副会長は、採択された要綱をもって政府との交渉に入るにあたって、これまでの経緯を拭い、執行部の陣容を一新して当たることが必要であるとの判断を示し、辞意を表明した。会員は事態の厳しさを改めて認識するとともにその辞任を諒承し、決意を新たにして直ちに新執行部を選出、久保亮五（第四部）会長、安藤良雄（第三部）、八十島義之助（第五部）両副会長が決定された。

なお改革要綱案策定と並んで、学術会議が本来、日本の学術の進展のために常時果たすべき多くの仕事が各種委員会の活動として続けられており、それらは口頭もしくは文書報告として百七十三件に及んで紹介された。

会長挨拶及び諸報告（第一日）

学術会議関係物故者に黙とうを捧げたのち、伏見会長は挨拶の中で、学術会議をめぐる情況にふれるとともに、改革の遂行、さらには日本の学術の振興のための一層の奮起を会員に要請した。諸報告にうつり、まず岡倉副会長から、会長の諮問組織として設置された「日本学術会議改革問題懇談会」（座長、永井道雄氏）の答申が報告され、この答申の内容は今回審議される改革要綱案に十分盛り込まれているとの判断が示された。続いて、一九八三年我が国で開催される国際会議、特定研究領域決定の経緯、科学技術振興のための機構試案、教科書検定問題への見解（学問・思想の自由委員会見解）表明などを含む各種委員会の報告紹介がなされた。

改革要綱案審議（第二・三日）

審議に先立って、伏見会長は提案採択後に予測される事態を説明し、総理府において進められている学術会議の改革検討に、どの程度本会議の理念が取り入れられるか懸念を述べた。そして重大な事態が起こった場合には、臨時総会を開いて学術会議としての意志を固めねばならないこと、また今期総会において改革要綱策定への会員の結束した努力を再び要請した。

つづいて要綱案各項目毎の逐次審議に入り、

I、「改革の基本的前提」として、(1)独特な性格の国の機関であること、(2)政府から独立して職務を行う国の機関であること、

(3)日本の科学者の内外に対する代表機関であること、(4)公選制を基盤とする重層構造制を備えていること、(5)組織・運営上総合性を有していること、(6)実質上、科学者の自主的組織として機能していることなど六点の内容

Ⅱ、「改革の重点」として、職務の明確化、会員のあり方、会員選挙は直接選挙を原則とするが定数のおよそ三分の一については、推薦制（コオプション制を加味する）を導入、任期三年通算四選禁止、部制・専門別制、内部諸機関の組織運営、研究連絡委員会、国際交流、予算・事務局、科学者との結びつきの強化、他の学術関係機関等との関係など十項目にわたる内容について審議採択した。

さらに要綱採択に付随して、要綱の基本的方向の尊重と細目についての連絡・協議を求めるための政府に対する要望「日本学術会議の改革について」、科学者、学会・協会をはじめ、政府、国会などの一層の理解と協力を求める声明「日本学術会議改革要綱の決定にさいして」、及び、今後外部との対応を含む諸措置及び実施方について、運営審議会に授権するための申し合せ「日本学術会議改革要綱の実現をめざす諸措置について」を採択した。

なお、現行法の枠内で直ちに実施可能な、科学者・研究者と一層の緊密化を図るための内規「学協会との連絡のための登録について」の一部改正を承認した。

新会長の決意表明

久保新会長は就任に当たって、「会員や全国の科学者の支援で、将来の日本のために、憂いのないよう、学術会議を改革するため、精一杯尽したい。」と述べ、会員、科学者の協力を要請した。

京都医学史研究会会則

昭和五十五年十月二十二日制定

1、〔名　称〕
本会は、京都医学史研究会といい、京都府医師会館内（〒604 京都市中京区御前通松原通松原下ル）におく

2、〔目　的〕
本会は、医学・医療を中心とした歴史を調査・研究・研鑽することを目的とする

3、〔会　員〕
本会の目的に賛同する京都府医師会員は、会員になることができる。なお、府医師会員以外の者でも、会員が推せんし、本会が認めた場合は会員になることができる

4、〔幹　事〕
本会には幹事若干名をおき、会務を運営する

5、〔幹事の任期〕
本会の幹事の任期は二年とし、総会で選出する。但し重任をさまたげない

6、〔総　会〕
総会は、当番幹事が招集し毎年一回開催する。なお、収支決算は総会の承認を経なければならない

7、〔事　業〕
本会は、次の事業を行う

例会、調査旅行、見学会等の開催、講演会、講習会、展示会等の主催・後援
専門医会、他団体との協力、交流
先哲、医人顕彰のための諸行事
会誌、資料集等の刊行
その他本会の目的に添う事業

8、〔経　費〕
本会の経費は、会費およびその他の収入をもってこれに充てる

9、〔会　費〕
本会に入会しようとする者は、年会費三千円を収めるものとする

10、〔会計年度〕
本会の会計年度は各年四月一日に始まり翌年三月三十一日に終る

以　上

昭和五十七年度事業計画

（五十七・四・一～五十八・三・三十一）

1、例会　毎月第一木曜日　午後二時～四時　医師会館
『京都の医学史』抄読会と会員発表。
十月と三月　府医師会と共催の医学史学術講演会。
一月　新年懇親会
五月、十一月　見学会

2、六月五・六日の第八十三回日本医史学会総会・学術大会への協力

3、会報のほか会員の研究発表を収録した会誌の発行

4、日本医史学会、その他諸団体との協力、交流。

5、その他

本会の幹事は次のとおりです。

氏名	住所	TEL
明石勤之助	六〇三　北区小山下総町三　鞍馬口病院	四四一-六一〇一
指宿　照久	六〇三　上京区烏丸通鞍馬口下ル	四四一-三三七八 四九一-六六八宅
北小路博央	六〇三　北区大宮南田尻町三	四九二-〇一八〇
杉立　義一	六一五　西京区桂野里町三	三八一-二七五五
中橋　弥光	六〇三　上京区七本松五辻上ル西陣病院	四六一-八〇〇〇
藤垣　亀雄	六〇四　中京区蛸薬師河原町東入	三二一-四七二一 二四一-二四六六宅
藤田　俊夫	六〇四　中京区烏丸通二条下ル	二三一-六〇三五

▽任期は二年間（一九八三年三月末日まで）
事務局：京都市中京区御前通松原下ル　京都府医師会館内
京都医学史研究会宛（TEL　〇七五-三二-二六七一）

京都医学史研究会例会

（五十六年四月～五十七年三月）杉立義一

▽第五回例会　五十六・四・二　医師会館
①抄読会「室町時代の医学」　山田　重正
②総　会

③会員発表「鎌倉・室町時代の疫疾」　山下　喜明
出席　十九人
▽第六回例会　五十六・五・一四　杏雨書屋
武田科学振興財団杏雨書屋の春季特別展示会を見学
参加　十五人
▽第七回例会　五六・六・四　医師会館
①抄読会「安土・桃山時代の医学」　宗田　一
②会員発表「安芸守定と医家としての安芸家について」
北小路博央　出席　十六人
▽第八回例会　五六・七・二　医師会館
①抄読会「南蛮医学とキリスト教の伝来」(1)　守屋　正
②映　画「くすりと日本人――古代から近代薬の黎明まで」
出席　二十人
▽第九回例会　五十六・九・三　医師会館
①抄読会「南蛮医学とキリスト教の伝来」(2)　守屋　正
②会員発表「上方歯科医人伝取材の中で見た京都の口中医と近代歯科医学の先覚者たち」　浦田　耕作　出席十七人
▽第十回例会　五六・十・三　医師会館
（府医師会と共催学術講演会）
「文明開化期の細菌学」
大阪大学名誉教授　藤野恒三郎
出席　三十七人
▽第十一回例会　五十六・十一・五
鳥辺山（日野鼎哉、和田東郭、荻野元凱）
清閑寺（並河天民、渡辺孝恭）墓所めぐり
参加　八人
▽第十二回例会
①抄読会「江戸時代の医学」(1)　山田　重正
②会員発表「『医心方』第二巻・鍼灸篇について」　高島　文一
出席　十五人
▽第十三回例会　五十七・一・二十四
①見学会　真珠庵、孤篷庵
②新年懇親会　一久　出席　三十三人
▽第十四回例会　五十七・二・四　医師会館
①抄読会「江戸時代の医学」(1)　山田　重正
②会員発表「中国医学古典について」(1)　赤堀　昭
出席　十三人
▽第十五回例会　五七・三・六　医師会館
（府医師会と共催学術講演会）
「白河法皇の死亡原因について」
平安博物館長　角田　文衛
出席　六十二人
事務局：京都市中京区御前通松原下ル　京都府医師会館内
京都医学史研究会宛（TEL　〇七五―三二―三六七一）